

特

4  
8

未来の世代に知ってもらいたいお米

中央中学校 一年 本條 結

皆さんは、お米について詳しいことを知っ

ていますか。私は祖父と祖母と叔父がお米を

作っているのです。少しならお米のことについ

て分かりますが、詳しくは分かりません。た

だ、私がいつも見ているお米は白く輝いてい

てすごく美味しいです。農家さんは、私たち

のために気持ちを入れて、お米を育てたり収

穫してくださっているのです。とても感謝して

います。そこで、一番身近にあるお米につい

て、もっと考えてみたいと思っただのでこの作

文を選びました。

さて、私は、お米についての思い出があり

ます。それは、私が小学生の時の話です。私

は小学校に入るまでご飯をお椀によそったこ

しかなかったです。小学校の最初の給食当番

の時にこぼしたり落としたりしていました。

その時は、ご飯にもみんなにも申し訳ない気

持ちでした。でも、次の日、上手によそえな

(1)

(2)

い私に気が付いた六年生が、こうやってやるんだよ。と、優しくよそい方や一人分の量などを教えてくれました。そのおかげで、私はだんだん上達していきました。そうして、私が六年生になったとき、一年生と給食当番をすることがありました。その時、うまくよそいことができない一年生の子がいたので、私が一年生の時に六年生に教えてもらったように、優しく教えてあげることになりました。一年生の子は嬉しそうに、ありがとう。と言ってくれ、次の日は一日目よりも上達していました。その姿を見て、私は、自分の一年生の時にそっくりだなと思いました。そして、このように、来年の一年生も、再来年の一年生も、三六年生に教えてもらって上達していくのだからうなと思いました。今では、夜ご飯に家族のご飯をよそいことが出来るくらいに上達しました。あの時教えてくれた六年生には今でも感謝していただきます。また、私が教えてあげた一年生も、ご飯をよ

(3)

そうところが上達していればいいなと思います。  
次に、私が一番好きなお米を紹介します。  
それは、私の祖父達が秋になつたら送つてく  
れる新米です。私の祖父達は、香川県でっヒ  
ノヒカリレとッおいで米レというお米を作っ  
ていて、そのうちッヒノヒカリレを毎年、私  
たちの家族に送つてくれます。私は小さい頃  
から、そのお米を食べてきたので、この慣れ  
親しんだ味が大好きです。新米は、他のお米  
と違って、炊飯器を開けた瞬間に広がるにお  
いがたまりません。お米はつやつやしていて  
宝石みたいですよ。秋になると、ご飯のおかわ  
りをして、たくさん食べています。  
祖父達は、夏の農作業は暑くて大変と言っ  
ていました。しかし、祖父と祖母の世代、そ  
して叔父の世代が、世代を超えて力を合わせ  
ることです。その苦勞を乗り越えて、毎年おい  
しいお米を作っていることはすごいと思いま  
す。このようなお米を作ることを、次の世代  
にもつなげてほしいと思います。そのため、

(4)

私もたくさん農業の経験を積んで、大きくな  
たら、農業の仕事もやってみたいと思いま  
す。  
お米は、日本人の私たちにとって大切なも  
ののです。でも、近頃、朝にお米を食べない人  
が増えていると聞きます。お米の料理はいろ  
いろなものがあります。おにぎり、お  
ムライス、チャリハン、丼もの、  
最近では、ライスパーパーなど、お米はい  
ろいろなものに変身できます。私は、たくさ  
んの人に、いろいろなお米の料理を食べても  
らいたいと思います。  
私は、一年生の時に六年生からお米のよそ  
い方を教えてもらったり、世代を超えて農業  
をして、いる祖父と祖母、そして叔父を見てき  
たりしました。また、お米は、今でもおんな  
に愛され、新しいものに変身を続けています。  
そんなお米を未来の世代に知ってもらうため  
に、私はお米をたくさん食べて、そのおいし  
さを伝えていきたいです。